研究デザイン

亀山市立白川小学校

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために」

（1）すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
（2）教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
（3）人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
（4）地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
（5）研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上をすすめる。

1.学校教育目標

「であい、ふれあい、そして未来へ」
～自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成～

白川小学校校舎

○めざす学校像 『一人ひとりの子どもが輝く学校』
・みんなの中で一人ひとりの子どもが、認められ、楽しく生き生きと安心して力を発揮することができ、達成感・充実感が味わえる学校

○めざす子ども像
・思いやりのある子
・自分を発揮できる子
・自分の思考を追求できる子
・対話をとおして人とつながる子
・新しい時代に対応していける子

5･6 年体験活動「炭作り」

2．研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成

～「白川っ子スタイル」を生かした学び合いの授業づくり～

3.研究主題設定の理由

（1）児童の実態

本校は、児童数が35人。そのうち小規模特認校制度を利用している児童は8人であり、特認校制度により校区外からの児童が増えることで、交友関係が広がり、学び合いの活性化につながっている。また、2年生と3年生が複式学級である。

一年間を通じて、地域と密着した体験活動を行っており、米づくりや炭焼きなどの体験や生活介護事業所「つくしの家」との交流などの社会福祉体験に取り組んでいる。本校は、地域と学校とのつながりが強く、保護者や地域の方とともに子どもを育てていこうとする風土がある。8年前からコミュニティ・スクールとなり、より一層地域とのつながりを強め、「地域とともにある学校づくり」を進めている。

小規模校であることを活かし、縦割りでの班活動を多く設定することで、全校児童が深く関わり合いながら学校生活を過ごしている。あたたかい雰囲気があり、上級生が下級生に優しくサポートできている。下級生はそうした経験をもとに、上級生になった時に下級生に自然と優しくできている。しかし、穏やかな関係を築く反面、お互いに切磋琢磨し、意欲の向上を図ったり、目標を目指したりしていく雰囲気は少ない。

体験活動「全校田植え」

体験活動「3･4年お年寄り訪問」

体験活動「餅つき集会」

（2）これまでの成果・課題

白川っ子スタイルによる統一した授業展開での学びと、白川小学校の特色である様々な体験活動での学びを二つの軸にすえ、相互の学びを関連させながら、体験活動の中で培われてきた自主性や発想力、豊かな想像力など児童の内面の力をさらに引き出し、学びの質の向上を目指して研究を行ってきた。

これまでの研究の取り組みでは、各学年に応じた学び方を設定し、教職員全員が共通理解をもって、自力解決の時間である「一人学び」と、ともに学び合う時間の「とも学び」の充実に向けた授業改善に取り組んできた。また、単学級、複式学級に関わらず、「学習リーダー」の実践に注力し、研究を進めてきた。研究を通して、「各学年に応じた学び方を明らかにし、教職員全員が共通理解をもって日々の授業づくりに生かすことができた。」「単学級か複式学級かに関わらず、どの児童も授業の見通しをもち、児童を中心に学習を進めることができる力を育むための手立てについて、見識を深めることができた。」といった成果が得られた。

一方で、「学習意欲の差が大きく、課題に粘り強く取り組むことが苦手な児童が多いこと」や「共通の課題に対して、友だちと意見を交わしながら考えを広げたり、深めたり、まとめたりする力が弱い」という課題が見られた。ほかにもわたり授業を行った際、間接指導にあたる学年の見取りや評価が難しいなどの課題もある。

4.研究主題について

前述した子どもの姿や課題から、本年度も、「白川っ子スタイル」をサブテーマに据え、複式学級での学習を見据

えた児童主体の授業スタイルの確立と教職員が協力して授業をつくりあげることを目指して研修に取り組む。また、算数科だけでなく全教科・全領域とし、あらゆる可能性を模索していきたい。これまでの研究で設定してきた「児童の目指す姿」を達成するために、間接指導の充実を図るための手立てを検討するとともに、児童が主体的に学習に取り組むことができるような学習指導方法について研究を進めたい。

さらに、白川小学校ならではの体験活動を、様々な教育活動と関連づけることで、児童の思考力・判断力・表現力の伸長を図るとともに、児童の向上心・学習意欲を高める手立てを意図的に行うことで、児童に学ぶ楽しさを感じさせたい。

5. 研究領域

全教科・全領域

6. 研究構想図

学校教育目標

「であい ふれあい そして未来へ」
～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

めざす子どもの姿

「自ら学ぶ子ども」

- 各学年に応じた学び方を身につけ、課題の自分化を図りながら、粘り強く課題解決しようとする子
- 自分のよさに気づき、生き生きと高めようとする子
- 学んだことを今後の学習や生活に生かそうとする子

「ともに伸びようとする子」

- 自分の考えを伝え、調べたことや考えたことを発表する子
- 考え方や意見の違う友だちと議論し再考する中で、考えを深める子
- 互いのよさや違いを認め合い、新たな考えを発見する面白さや楽しさを感じられる子

研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成
～「白川っ子スタイル」を生かした学び合いの授業づくり～

「白川っ子スタイル」の確立

- 間接指導を充実させるための指導の工夫、手立て
- ガイド学習やリーダー学習の充実
- ふりかえりの充実

学びの基礎・基本

- 学習規律の徹底
- 「話す」「聴く」スキルや語彙力などを高める取り組み
- 自主学習、家庭学習の習慣化

認め合いつながりあうなかまづくり

- 児童のきめ細かな実態把握
- 人権教育の日常化
- 安心できる学習集団づくり
- 素や感性を磨く「すみがく」
- 意図をもった異学年交流
- 地域とともにある学校づくり
- 様々な外部機関との連携

7. 具体的な取り組み

（1）白川っ子スタイル（統一した授業展開）の確立

〇研究主題及び目指す子どもの姿の達成に向けて、統一した授業展開に沿って「一人ひとりが考えを持つための手立て」や「話し合い活動の充実」を図る取り組みを校内全体で意識して行っていく。本年度も間接指導の充実化に向けた「学習の手引き」の作成や、「学習リーダー」や「学習ガイド」の活用、実態や課題に合わせた学習形態の工夫等について研究を進めていく。また、「目指す子どもの姿」と実態を毎月照らし合わせて、実践の妥当性や今後の取り組みについて検証していく。

（2）基礎・基本の学力の定着

〇語彙力、表現力の向上を図る取り組み

・国語辞典や「ことばの宝箱」などを活用した学習を進め、語彙力、表現力の向上を図る。

・各教科ならではの「学習用語」を用いた言語活動の充実を図る。

・始業式、終業式、白川っ子タイム（児童集会）等で各学期の目標やがんばったことなどを話す「スピーチタイム」を設ける。

児童集会「白川っ子タイム」

〇短時間学習の充実

・朝の学習を曜日ごとに設定し、基礎・基本の定着を図る時間として確保する。

〇自主学習の充実

・「自主学習の手引き」を配布し、自己学習能力の向上を図る取り組みを継続的に進める。また、自主学習ノートを掲示物や通信等で児童や保護者に紹介し、内容や意欲の向上を図る。

〇ワンダーコーナー（教師によるおすすめの本の紹介）

・児童の好奇心や意欲を引き出し、発展的な内容に触れられるコーナーを設ける

「ワンダーコーナー」

（3）認め合い、つながりあうなかまづくり

〇小規模校の利点を生かしたきめ細やかな児童の実態把握

・職員会議や校内支援委員会などで「気になる子」の様子を交流し合い、全教職員で情報を共有する。

・QU アンケート、人権アンケートなどを活用し、児童の実態把握に努める。

〇人権教育の推進及びすみがくタイムの設定

・人権カリキュラムに沿った、系統的な人権教育を行うとともに、全校で人権にかかわる学習として「すみがく」を行う。

・人権、なかまづくりを意識した授業を計画的・継続的に行う。

〇地域、保護者、つくしの家等とのつながりを大切にした体験活動を継続する。また、体験活動を振り返ったり、他の学習と関連付けて学びを深めたりすることができるようにする。

＜主な体験活動＞

地区探検、さつまいもづくり、お年寄り訪問、花づくり、炭づくり、
つくしの家福祉体験、米作り体験、白川ふれあい集会、もちつき集会

1・2 年体験活動「いもさし」

（4）校内研修会の充実

〇授業や校内で設定した「めざす児童の姿」にせまる手だての検証を継続的に行う。

〇日ごろから互いに授業を見合い児童の理解を図るとともに、授業の構成や展開などについて話し合う。

〇積極的に研修会に参加し、還流報告により校内研修のさらなる充実を図る。

〇OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）を随時行う。